



はじまりの美術館

福島県障がい者芸術文化活動支援センター

はじまりの美術館

2019年度事業報告書

ご相談はこちらまで

はじまりの美術館 相談窓口

TEL/FAX:0242-62-3454

平日10:00~18:00

※火曜・展示入れ替え期間中休館

〒969-3122 福島県耶麻郡猪苗代町新町4873

Mail:soudan@hajimari-ac.com

※直接はじまりの美術館にご来館いただいての相談も可能です(要事前予約)

相談は無料です。

一緒に悩み、考え、
障がいのある方の
表現活動を
広げていく場所だよ

福島県障がい者
芸術文化
活動支援センターって
どんなところ？

ワン！



はじまりの美術館は、2019年度より福島県障がい者芸術文化活動支援センターとして活動をはじめました。

福島県内の障がいのある方々が自分らしく表現活動を行えるよう、また障がいのある方の表現活動にかかわる方々と一緒に悩み・考え、より良い方向へ向かえるよう、少しでも力になっていければ幸いです。

こんなときにご活用ください！



「相談する」

福島県内で、障がいのある方の表現活動に関するアドバイスや、作品の展示等について相談や情報提供を行います。
また著作権等の権利保護に係る専門的な相談にも、弁護士などと連携し対応します。



「研修を受ける」

障がいのある方の表現活動を支援するご家族や施設職員、また関心のある方を対象に、著作権等の権利保護や、作者との関わり方などをテーマとした研修会を開催します。



「展覧会に行く」

福島県内に在住の障がいのある作家の調査を行うとともに、展覧会を企画・開催し、表現の多様性と魅力を広く伝えます。



「ネットワークを広げる」

福島県内、近隣エリアの関係機関や関係者が、情報共有・意見交換を行う場を設け、ネットワーク化を図ります。



「情報を知る」

県内、ならびに他県の障がいのある方の表現活動にかかわる情報を収集し、ホームページ、SNSなどで発信を行います。

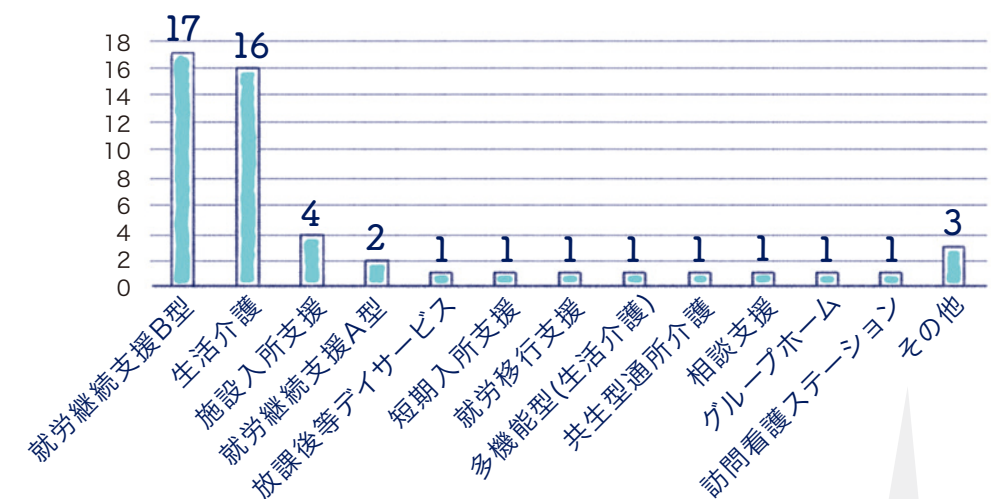


活動報告1

障がい者芸術文化活動支援センターとして活動を開始するにあたり、福島県内の福祉事業所に対して芸術文化活動状況についてのアンケート調査を行いました。今回は331ヶ所へメールにてアンケート調査を依頼し、FAX、Googleフォームにて51ヶ所から回答をいただきました。今回のアンケート結果を踏まえて、次年度以降の活動に活かしていきたいと思ひます。

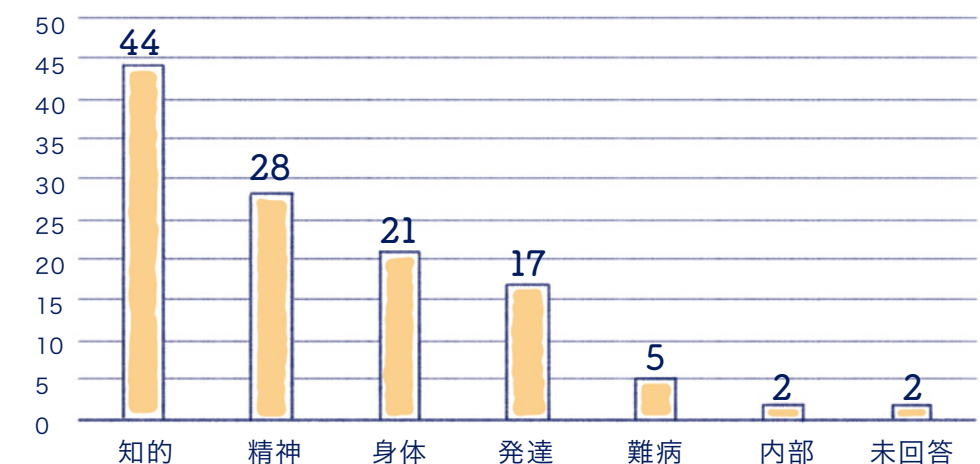
福島県における障がい者の芸術文化活動状況のアンケート結果(アンケート回答率15.4%)

■主な事業 ※複数回答可

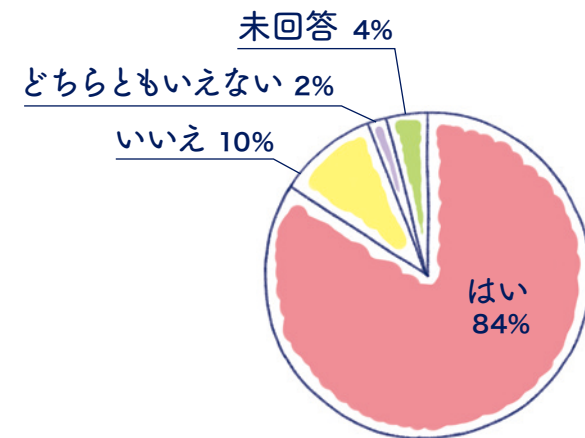


その他の回答 「飲食店営業」「お弁当づくり」「カフェ」

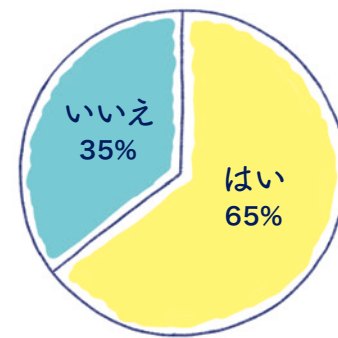
■主な障がい種別 ※複数回答可



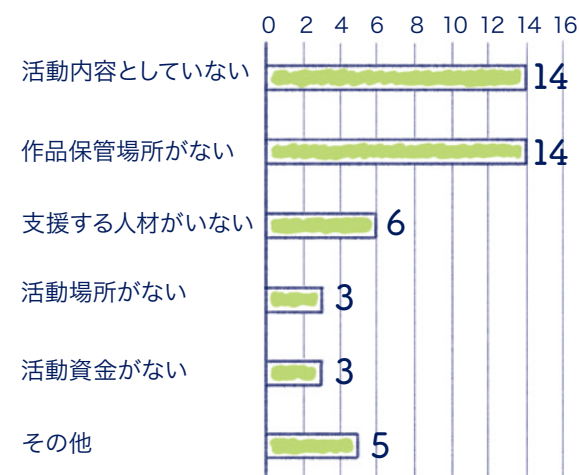
Q1 障がい者の芸術文化活動について関心がありますか？



Q2 あなたの施設では障がい者の芸術文化活動を行なっていますか？



Q2-2 行なっていない理由をご回答ください ※複数回答可 (Q2で「いいえ」と回答した事業所)

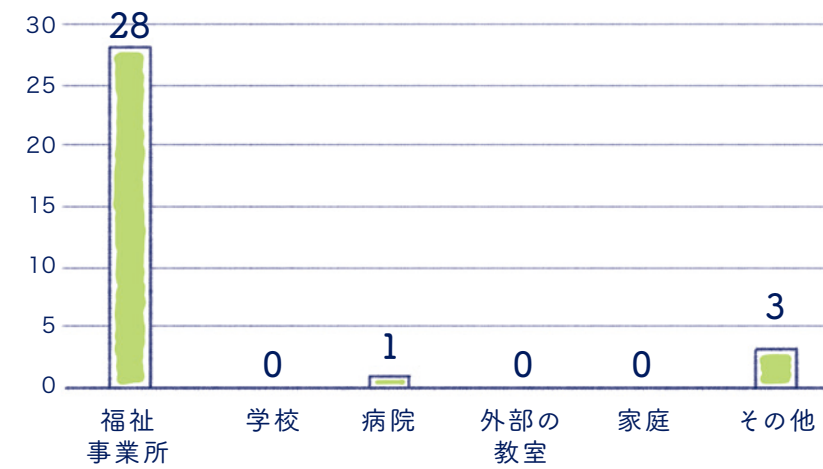


その他の回答

「就労支援事業の中での活動時間は少ない、趣味の自主参加として多少は実施しています。」
「活動を教えてくれる人がいない」
「今のところ利用者様からの希望がない」
「手が回らない」

現在どのような芸術文化活動をしていますか？ (Q2で「はい」と回答した事業所)

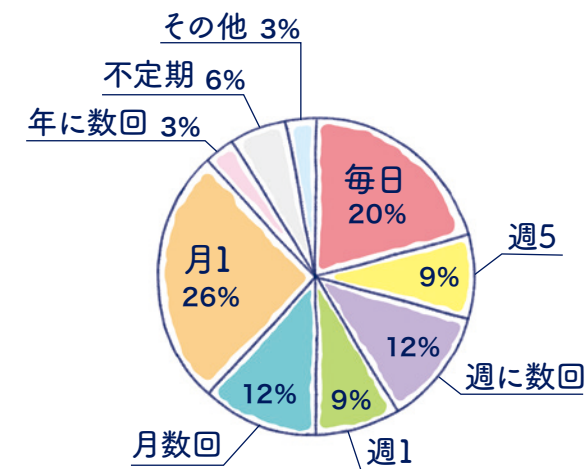
Q3-1 活動場所 ※複数回答可



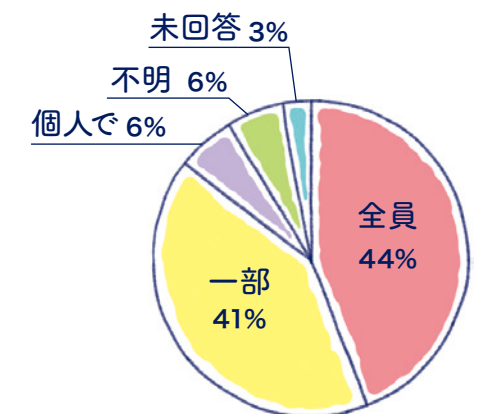
その他の回答

「体育館をお借りしている」
「公民館活動を中心に事業所内で練習」
「外」

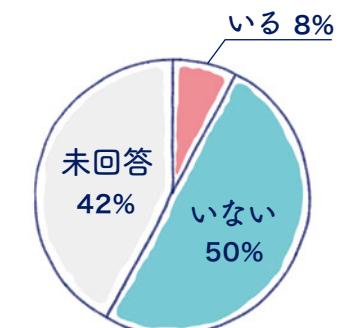
Q3-2 活動頻度



Q3-3 活動人数

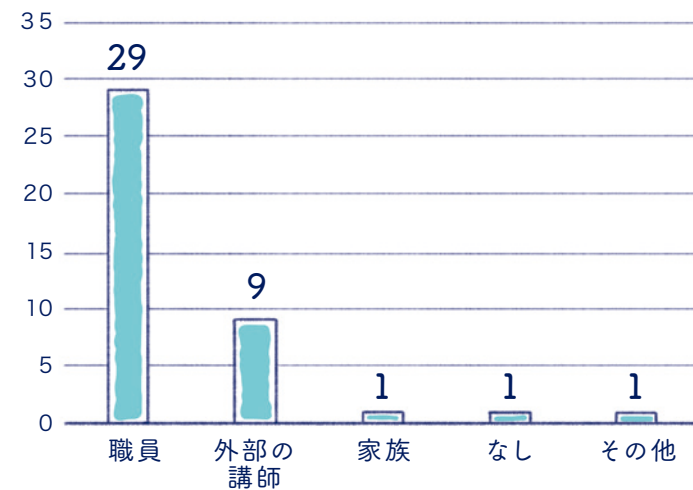


Q3-4 活動人数のうち、障がいのない人はいますか？ いる場合、何名程度いますか？



「いる」の回答
「1人」
「職員15名」

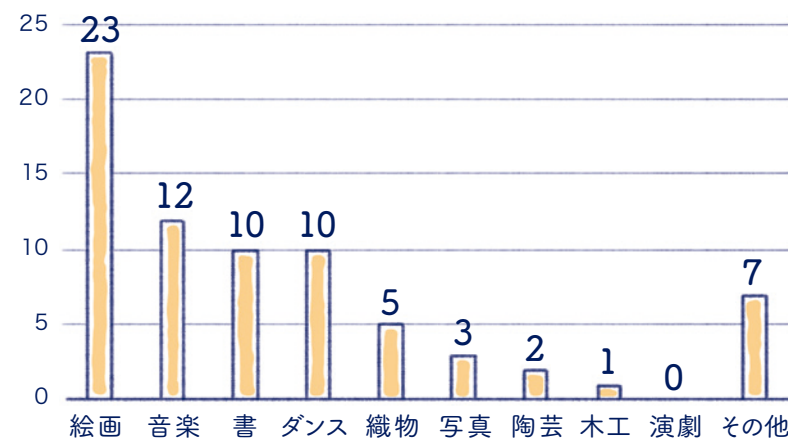
Q3-5 指導者について ※複数回答可



その他の回答

今年度まで外部講師に依頼していたが、来年度は体制が変わるため、職員のみで活動を行なっていく予定

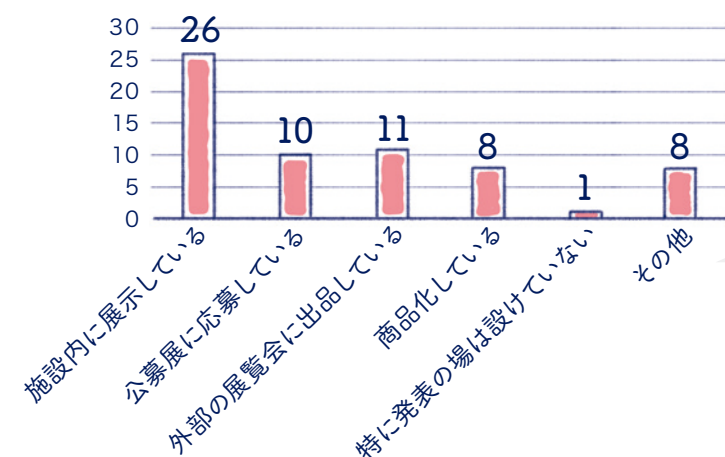
Q3-6 現在はどのような活動内容ですか? ※複数回答可



その他の回答

ちぎり絵、体操、フラワーアレンジ、写し絵、塗り絵、和太鼓、エアロビクス、卓球、バトミントン、刺繍

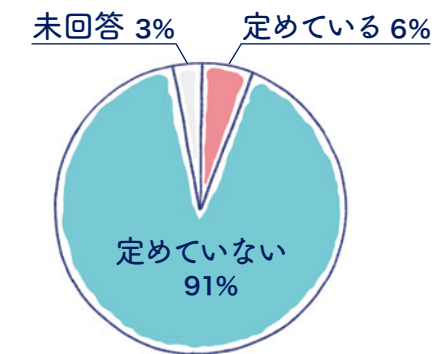
Q4 作品はどのような場で発表していますか? ※複数回答可



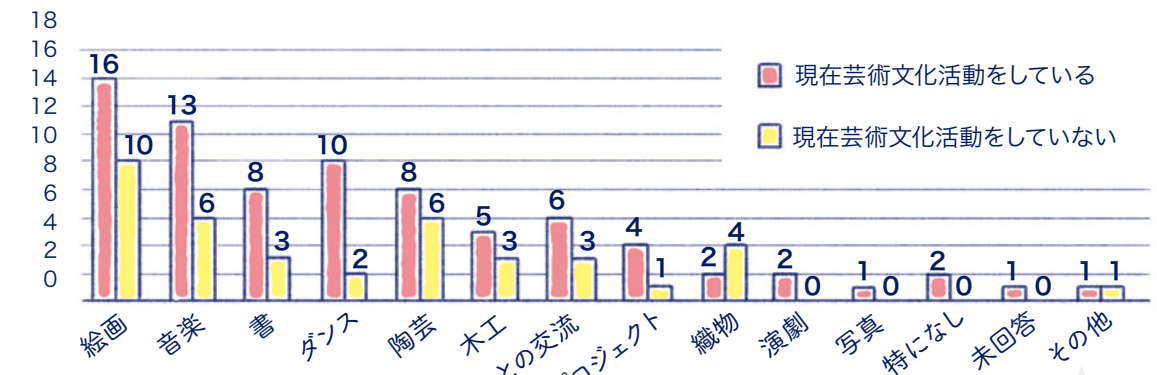
その他の回答

「年に1度の祭りや発表会で発表」
「地域文化祭や市作品展に出展」
「家に持ち帰っている」
「イベント」
「様々な公共の場所」
「地域の夏祭り」
「会報」
「公民館祭り・芸能祭」

Q5 作品の著作権等の帰属、出展、販売、二次利用等を行う場合の取り扱いを定めていますか?



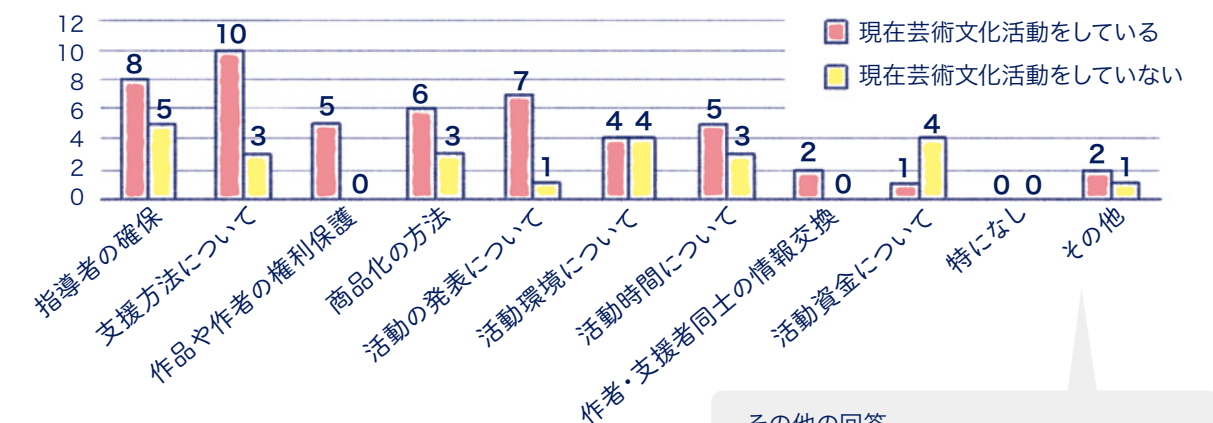
Q6 今後どのような芸術文化活動を行なってみたいですか? ※複数回答可



その他の回答

「今のところは、現状の活動を続けていきたい」
「希望者がいれば」

Q7 芸術文化活動において、現在の課題や必要としていることがあれば教えてください。 ※複数回答可



その他の回答

「気持ちがそこまでいっていない」
「作業活動に結び付けられるものがよい」

Q8 はじまりの美術館に期待すること、相談したいことなどあれば記入してください(抜粋)

現在芸術文化活動をしている事業所より

■期待すること

- 障がい者のアートに関心を高めており、これからも障がい者の発表の場として活動を推進してください。
- オハラブレイクと被るかもですが、アートを題材にしたフェス的なこと。
- 利用者様の出来る事、やりたい事を確認しながら、絵描きなどの創作を行っています。今後も日々の活動で楽しみながら、それぞれの個性を活かせる作品作りをし、「はじまりの美術館」に出品する事で、利用者様の楽しみや希望につながる事を期待しています。
- 福島県内で芸術文化活動を行っている事業所等の支援員同士の交流の場があるとよい。
- 事業所や法人等に来ていただける講師の紹介。
- 芸術文化活動を行う人材を育てるための研修があるとよい。人材育成でなくとも、表現活動を行う際の基本的な知識(他県の先進的な事業所等の講師派遣、額装の仕方、著作権等)を学ぶことの出来る場があるとよい。
- 絵画を展覧会などに出品をしています。入賞すると「よかったね」で終わり、施設内に展示されるにとどまっています。商品化ではないのですが、外部に出し購入していただければ、資金にもなり1つの仕事としての本人の活動になるのでないかと思いますので、福島県内のまとめ役のような形でその部分を担っていただきたいと思います。
- 展示する環境面などが困難ですが移動できる美術館や展示会があれば、もっと身近に触れ合うこともできて、よいと思われそうです。事業所内の活動はほとんど手作りの教室になります。
- 様々な視点に立った企画を今後も楽しみにしております。

■相談したいこと

- より高い工賃を目指している就労系の事業所であり、思いがあっても現実化することが困難である。また、通所系であり保護者の意向もかなり影響されてしまう。アンケートの意に合わない回答になり申し訳ないです。
- 利用者の絵や書を商品化する際の著作権や方法がわからないので教えてほしい。
- 作品を製品化したいアイデアはあるが、ロットや値段などのことを考えるとできない状態です。
- 製品化した作品を販売したいがどんな方法でより多くの人々に見て貰えるか販売方法が知りたい。
- ダンスは長年活動していますが、そのほかのことにも挑戦出来たら利用者さんのいろいろな面が発見できると思っています。ですが、なかなか塗り絵程度の活動しかできず創作活動に至らない。のびのび自由に能力を発揮させることが難しい。才能があるかどうか「？」です。まずは利用者と共に「はじまりの美術館」へ見学に行くことを実現させたいと思います。

現在芸術文化活動をしていない事業所より

■相談したいこと

- 現在事業所では、ダンボールの下請けを行っておりますが、3月いっぱいまで終了となります。利用者さまの高齢・重度化などの課題もありますが芸術文化活動を日々のプログラムとして導入できたらとも考えています。どんな活動が合うのか、活動資金、人手などクリアしなければいけない課題が多いなと感じる今日この頃です。もし、参考になる活動例などがあればご教示いただけたら嬉しいです。

■意見・感想など

- ハンデのある人たちが美術家として活動していければ素晴らしいと思います。
- 就労継続支援事業所は一般就労を目指している障がい者の皆様を、支援する事業所となっています。個人的な意見で決して芸術文化活動を否定するわけではありませんが、活動時間中にこれらの活動を取り入れてよいものか疑問があります。活動の幅を広げるという意味では考えてみたいです。

相談の事例紹介

作品はどうやったら美術館に展示してもらえますか？

(はじまりの美術館の来館者、障がいのある作家本人より電話での問合せ)

例年秋口ごろから募集を開始する福島県障がい者芸術作品展「きになる⇄ひょうげん」にご応募いただければ、作品をはじまりの美術館に展示させていただきます。また、全国から応募可能な公募展などもご紹介させていただきます。ちなみに、2020年現在、はじまりの美術館では貸し館(美術館の展示室を一般の方にお貸しすること)は行なっておりません。

利用者の方と一緒に、屋外に設置する机やイスに絵を描く計画しています。どんな絵の具を使うとよいでしょうか？(福祉事業所職員)

屋外で雨などにさらされる恐れがあれば、「耐水性」と記載のある絵の具がよいです。また、画材の扱いを考えると、「油性」よりも「水性」と記載がある絵の具の方が、大勢で制作するのに向いていると思います。ホームセンターや、画材屋さんの他に、インターネット上で購入できます。

施設の利用を終えられた方の作品の保管はどのようにするとよいでしょうか？(福祉事業所職員)

作品の扱いに関する契約や取りかわしを行っていない場合は、利用者の方に利用を終えられたタイミングでお返しすることが望ましいです。何か事情があり、施設で作品の保管を行なっていく場合は、利用を終えられる前に、書面で取りかわしを行うことが望ましいです。

fukushima fileに掲載されている作品を借りるにはどうしたらよいですか？(美術館関係者)

まずはご希望の作品をお知らせください。はじまりの美術館が仲介して、作者の所属事業所様とやり取りさせていただきます。借用料は、ご希望の作品点数、サイズなどによって異なります。

企業が持っているギャラリースペースがあり、そこでの展示内容を相談したい。(会社員)

はじまりの美術館が運営するはじまりアーカイブス unico fileやfukushima fileに掲載されている作品であれば、貸し出しの仲介をさせていただきます。また、予算規模に応じて、どんな展示プランが可能か、必要に応じてアドバイス等もさせていただきます。

fukushima fileに掲載されている作品を商品のデザインに使用したい。(会社員)

作者や所属事業所様と仲介させていただきますので、デザインに使用したい作品をお選びいただき、どのような媒体で使用したいかお知らせください。デザインの使用料金の目安も準備しておりますので、お問い合わせください。またクリアファイル・ポストカードなどは、はじまりの美術館でも制作実績がありますので、必要に応じてアドバイス等もさせていただきます。

活動報告2

映画「ナイトクルージング」上映会

日時：2019年9月22日(日)17:00～20:30

ゲスト：佐々木 誠(映画監督)
縦山 智子(マイノリマジョリテ・トラベル・クロニクル実行委員会代表)
長津 結一郎(九州大学大学院芸術工学研究院 助教)

会場：はじまりの美術館

参加者：19名



■映画「ナイトクルージング」とは

視覚がなく、光すら感じたことのない全盲の加藤秀幸は、ある日映画を作ることを決める。加藤は、映画制作におけるさまざまな過程を通して、顔や色の実体、2Dで表現することなど、視覚から見た世界を知っていく。また、加藤と共に制作する見えるスタッフも、加藤を通して視覚のない世界を垣間見る。見えない加藤と見えるスタッフ、それぞれが互いの頭の中にある“イメージ”を想像しながら、映画

がつくられていく。加藤の監督する短編映画は、近未来の宇宙の小惑星を舞台にした、生まれながらに全盲の男と見える相棒が“ゴースト”と呼ばれる存在を追うSFアクション映画。それはまるで、映画制作の現場で浮かび上がる、見える/見えない世界の間に漂う何かとも重なる。(公式フライヤーより抜粋)

■レポート

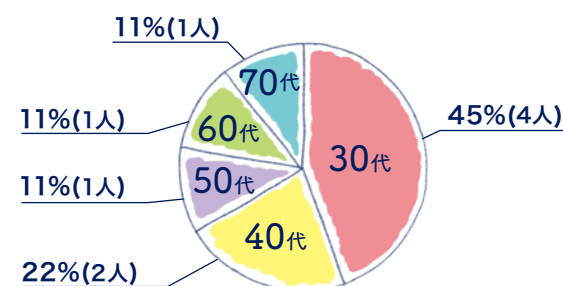
生まれつき目の見えない監督の映画制作の過程を追ったドキュメンタリー映画と聞いてどんなことを想像するでしょうか。目の見えない監督を周りのスタッフが支援しながら一つの作品を作っていくことをイメージするかもしれませんが、この映画はあくまでも監督の思い描くイメージを様々な分野の専門家たちが知恵と技術を駆使しながら形作っていく、支援する/されるといった関係を感じさせません。見えない監督が思い描く世界はどのようなものなのか、世界を違った視点で見ているもの同士が共

佐々木 誠 (ささき まこと)

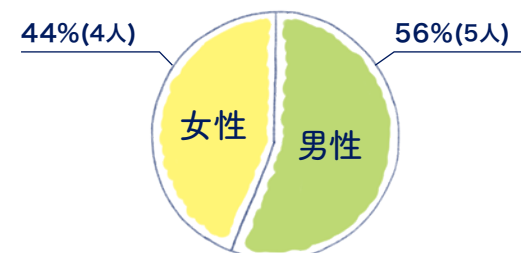
1975年生まれ。主にCM、テレビ番組、プロモーション映像などを制作。映画作品に『Fragment フラグメント』(2006)、『INNERVISION インナーヴィジョン』(2013)、『マイノリティとセックスに関する、極私的恋愛映画』(2015)、『記憶との対話』(2016)、『熱海の路地の子』(2018)、『ナイトクルージング』(2018)などがあり国内外で公開されている。他にフジテレビNONFIX『バリアフリーコミュニケーション』(2014)、カンヌライオンズ出品作『光を、観る(NPO法人クリエイティブサポートレッツ観光映像)』(2017)などを演出、紀里谷和明監督『GOEMON』(2008)など、多くの劇映画の脚本にも関わる。

ナイトクルージング アンケート結果(アンケート回答率47.3%)

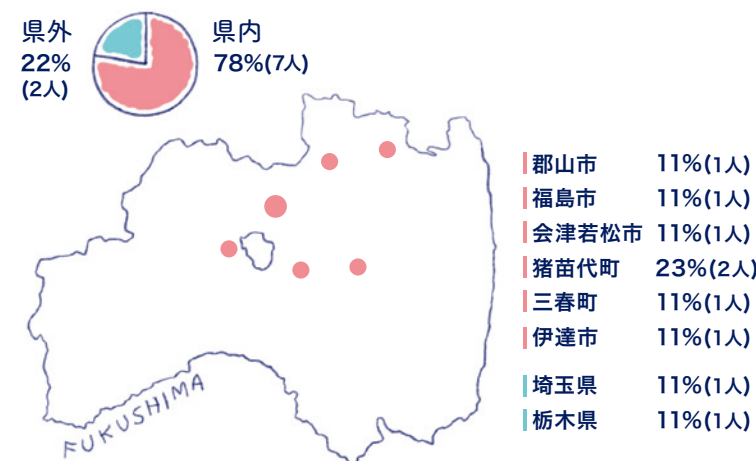
Q1 年齢をおしえてください



Q2 性別をおしえてください



Q3 どちらからいらっしゃいましたか？



Q4 ご職業をおしえてください

※複数回答可

会社員	5
自営業	1
福祉関係	1
公務員	1
フリーター	1
その他	1

その他の回答
・地域サポーター

Q5 今回のイベントをなにでお知りになりましたか？ ※複数回答可

Facebook 6 twitter 2 知人からの紹介 1

Q6 イベントへのご意見・ご感想をご記入ください

面白かったです。人によって見方が違うことを改めて思いました。最初の音だけの場面は自分の中でもストレスを感じているのがわかりました。

視覚的イメージを生みながらに持たない？人とのイメージの共有の様なものを考えていたのですが、色々参考になるものがありました。

映画おもしろかったです。映画をつくるのに聞いたことのないクリエイティブの仕事が

これほどたくさんあるんだとびっくりしました。ドキュメンタリーは仕事映画でもあるんですね。加とうさんの12分の映画、アメコミのふんい気がありかっよかったです。クオリティ低いとみる人もいるのかーとびっくりしました。明日も行けたらよかったのですが、ムリそうで残念。すてきな企画ありがとうございました。

家族にマイノリティが居るため、分かり合うプロセスを目

のあたりにする良い機会になりました。ありがとうございました。

「ナイトクルージング」タイトルにひかれた。映画の中で全盲の方がアクションすること例えたタイトルになったのかと思えた。「闇夜の航海」を肌身で感じた数時間でした。

はじまりの美術館でこの映画を見ることができて良かったです。

映画自体の興味深さもさることながら、監督のお話も面白かったです。ありがとうございました。

人に伝えることが加藤さんは上手だなと思いました。物をつくる過程は見えても、見えなくても同じということを確認しました。

活動報告3

映画「記憶との対話」上映会＋ディスカッション

日 時：2019年9月23日（月・祝）14:00～17:30

ゲスト： 縦山智子（マイノリマジョリテ・トラベル・クロニクル実行委員会代表）
長津結一郎（九州大学大学院芸術工学研究院 助教）

会 場： ミューカルがくと館・中ホール（郡山市）

参加者： 19名



■映画「記憶との対話」とは

〈障害〉と〈健常〉、〈マイノリティ〉と〈マジョリティ〉の境界線に問いを投げかけた「マイノリマジョリテ・トラベル」。2006年、マイノリマジョリテ・トラベルは、パフォーマンス公演「東京境界線紀行『ななつの大罪』」を発表しました。この作品は、〈障害〉と〈健常〉をわける境界線に着目し、その社会的コンセンサスの曖昧さに挑戦した表現として反

響を呼びました。2016年、映画「記憶との対話～マイノリマジョリテ・トラベル、10年目の検証～」が新たに制作されました。マイノリマジョリテ・トラベルと社会の10年の軌跡を検証するこの作品は、今でも全国各地で上映会が開催され続けています。

■レポート

本イベントは、この映画を通して、現代の日本社会における〈障害〉と〈健常〉の境界線をそれぞれの立場から再考し、この作品が投げかける問題意識について様々な方々と話し合い、共有することを目的に企画しました。

上映前に、まずゲストである長津さんから、「なくならない境界線、そこにある芸術」というテーマでレクチャーをいただきました。〈障害〉と〈健常〉、〈マイノリティ〉と〈マジョリティ〉などの境界はその人の置かれている状況によって揺らぐものであるというお話から、芸術文化の価値

観について広がるお話を伺いました。その後、もう一人のゲストである縦山さんから「マイノリマジョリテ・トラベルとマイノリマジョリテ・トラベル・クロニクル」について解説をいただいたあと、映画を鑑賞しました。

上映後は円になって、「話してもいいし、話さなくてもいい」というルールのもと、それぞれ感想や考えたことなどを言葉にし、障害やマイノリティといった境界を改めて考え直す機会となりました。

縦山 智子（もみやま ともこ）

マイノリマジョリテ・トラベル・クロニクル実行委員会代表

福井生まれ、ニューヨーク育ち、東京在住の作曲家、アーティスト、通訳者。スタンフォード大学にて作曲と文化心理学を学び、文化庁新進芸術家としてオランダ王立ハーグ音楽院作曲科で研鑽を積む。世界各地の芸術祭などで人と環境の関係性を問うサイト・スペシフィックなプロジェクトを展開。周縁化された人々や異分野の専門家等と協働し、対話を媒介しながら複数の物語を紡ぎ合わせることで、非人類中心主義的なパラダイムから世界を聴くための新たな共同体の音楽を探求している。日本相撲間芸術作曲家協議会理事、Art Translators Collective 創立メンバー。

<https://www.tomokomomiyama.com/>

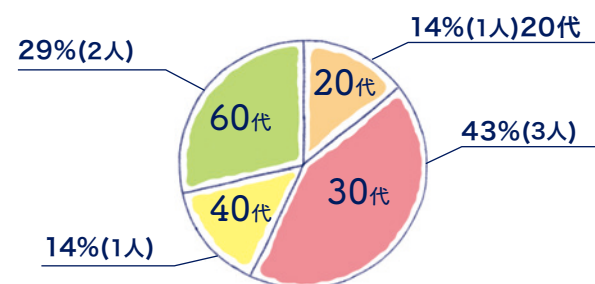
長津 結一郎（ながつ ゆういちろう）

九州大学大学院芸術工学研究院 助教

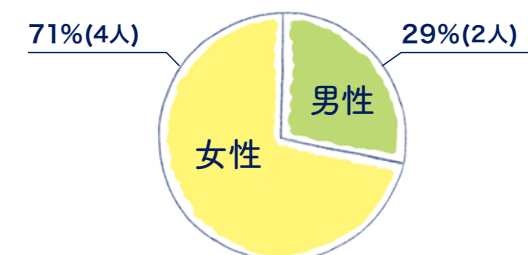
アーツ・マネジメント、文化政策学、芸術社会学などをベースとし、障害のある人などの多様な背景を持つ人々の表現活動に着目した研究を行なう。また近年は、芸術活動の担い手育成や市民創作ワークショップをフィールドとして、芸術文化の持つ役割についての考察を深めている。著書『舞台の上の障害者：境界から生まれる表現』（九州大学出版会、2018年）にマイノリマジョリテ・トラベルのフィールドワークを掲載。共著に『はじめての“社会包摂×文化芸術”ハンドブック』（九州大学大学院芸術工学研究院ソーシャルアートラボ、2019年）、共編に『アートプロジェクト：芸術と共創する社会』（水曜社、2014年）など。

記憶との対話アンケート結果（アンケート回答率36.8%）

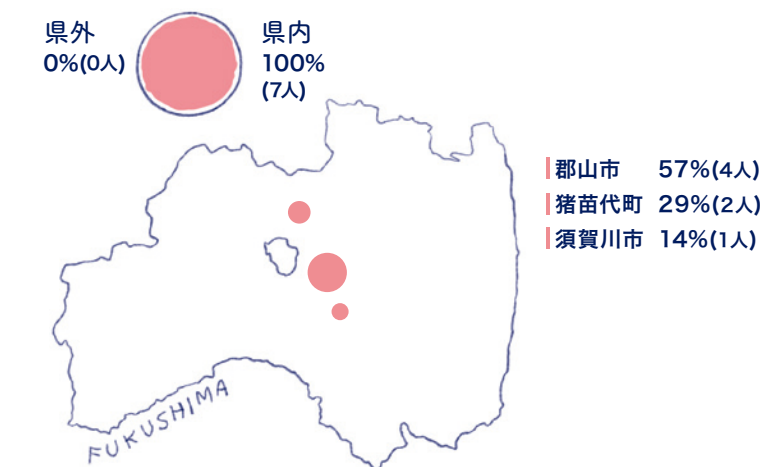
Q1 年齢をおしえてください



Q2 性別をおしえてください



Q3 どちらからいらっしゃいましたか？



Q5 今回のイベントをなにでお知りになりましたか？ ※複数回答可



Facebook 5



はじまりの美術館HP 2

Q6 イベントへのご意見・ご感想をご記入ください

ディスカッションのときには、さも"健常"として話していましたが、いつでも自分が"障害"をもつ感じる立場になることをいつでも当事者になりうることを忘れないようにしたいと思います。子どもについての"説明"の話ではただただ事実だけを伝える大人の姿(変な間や空気を出さないこと)が大切と思いました。今日は障がいすることに終始したので、マイノリティの話はできなかったのですが、今度機会があればと思いました。

境界線をなくすのは大変なので、逆に線をたくさんひいたら無いのと同じという言葉が大切に生き

ていますと言うのを忘れたのでここで書きました。自分とは違う人(モノ)を受け入れるには、実はけっこうエネルギーが必要だと日々思います。考えない=脳の省エネの方が人は楽なので。脳を省エネせず考える。対話することがシンプルですがとてもむずかしいことだと思うので、一人一人がそれをイシキできれば社会は良くなると思います。

「境界」について意識し直しました。ディスカッションは面白いですね。知らない人が多いのは楽しいです。無知、未知を知って概念が変化しました。

今日はとてもすてきな美しい出会いができました。

普段から思っている境界…考えれば考えるほど難しいです。上映の舞台参加される方たちが、どう互いの障害を理解、共有していったかの部分をもっと知れたかったです。遠方からありがとうございました。

障害と健常とのボーダーラインを深く考える機会を与えてくださりましてありがとうございます。ディスカッションにより様々な立場でのご意見も聞けて考えが深まりました。

子どもが生まれてから、よくわからないのにわかったように話すことや流してしまうことをしないように気をつけてきました。(その時の対応で第一印象が決まってしまうように。)今回の映画とディスカッションを通じて日常生活で感じていたことを言葉にでき、改めてじっくり考えることができました。境界線がないと自分というもの、アイデンティティもよくわからなくなる。その境界線を使って差別したり理不尽なことをするのが問題である。

活動報告4

トークイベント 「地域と障害ーしがらみを編みなおす分解者たちー」

日 時：2019年9月28日(土)15:00～17:00

登壇者：山下浩志(わらじの会)、猪瀬浩平(明治学院大学 教授)、岡部兼芳(はじまりの美術館 館長)

会 場：はじまりの美術館

参加者：25名



■レポート

わらじの会は、埼玉県越谷市で30年以上にわたり障がいのある人もない人も地域で共に暮らしていくための活動を続けてきました。わらじの会に立ち上げから関わる山下さんからは、わらじの会に所属する橋本克己さんのエピソードを交えながら、障がいのある方が地域に出ていく実践の紹介がありました。まだまだ車椅子の方への配慮がなされていなかった時代に、周囲の人々と体当たりで関係性を作ってきたわらじの会。そうした関わりを「しがらみを編みなおす」と捉え、その活動は2010年に「地域と障害ーしがらみを編みなおす」(現代書館)として書籍にまとめられました。

山下 浩志 (やました ひろし)

1977年ごろから埼玉県越谷市に養護学校をつくる運動に加わる。78年に「障害のある人もない人も共に街に出て生きよう」を合言葉に、障害者や支援者でつくる「わらじの会」を設立。現在はNPO法人障害者の職場参加をすすめる会事務局長を務める。

猪瀬 浩平 (いのせ こうへい)

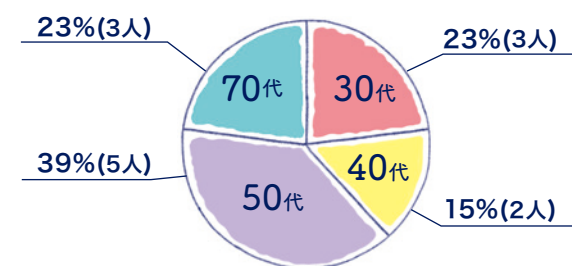
1978年、埼玉県浦和市(現さいたま市)生まれ。2007年から明治学院大学教養教育センター専任教員としてボランティア学を担当。NPO法人のらんど代表理事、見沼・風の学校事務局長などをつとめる。主な著書に、「むらと原発一窪川原発計画をもみ消した四万十の人びと」(農村漁村文化協会、2015年)、「分解者たちー見沼田んぼのほとりを生きる」(写真:森田 友希、生活書院、2019年)など。

また、幼い頃からわらじの会の活動を見てきた猪瀬さんからは、2019年の著書「分解者たちー見沼田んぼのほとりを生きる」(生活書院)から、「とるに足らないとされたものたちや見落とされたものたち」に改めて光をあて出会い、関わりあうことの大切さについての話があり、会場を交え意見の交換が行われました。

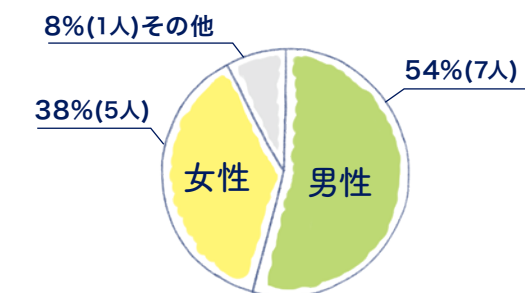
当日の会場には、埼玉からわらじの会代表の藤崎さんをはじめ、関係者の方も多くご参加し、当時のエピソードなどもお話しいただきました。地域と障害、そして山下さんからは会の中で哲学者鶴見俊輔の「限界芸術論」にも触れられ、表現ということを考える機会となりました。

トークイベント「地域と障害」アンケート結果(アンケート回答率52.0%)

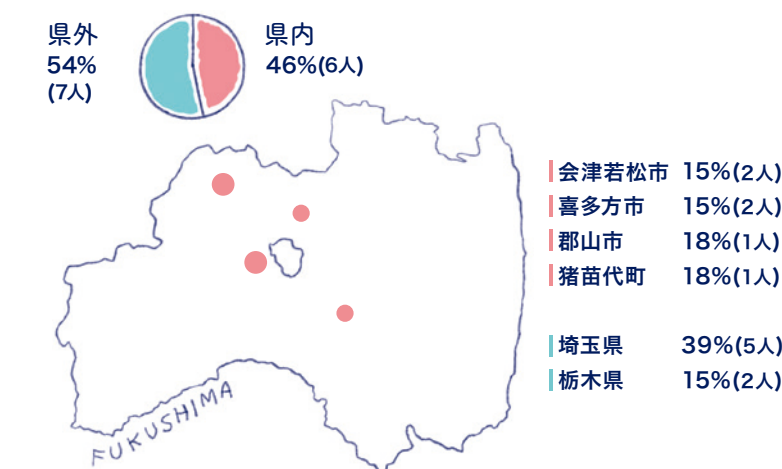
Q1 年齢をおしえてください



Q2 性別をおしえてください



Q3 どちらからいらっしゃいましたか?



Q4 ご職業をおしえてください

※複数回答可

福祉関係	3
公務員	3
自営業	2
無職	2
フリーター	1
その他	2

Q5 今回のイベントをなにでお知りになりましたか? ※複数回答可

知人からの紹介 7 Facebook 6 ポスター、チラシ 1 その他 1

Q6 イベントへのご意見・ご感想をご記入ください

作業所B、生活介護で働いていて地域との関わりをどうされているかと気になり、参加してみました。30年前はこんなだったんだーと興味深くお話を聞かせてもらいました。今回のお話を参考に自分は何ができるか考え行動できればと思います。

ああやましたさん…すごいなあ むかしのおれのことをよくおぼえていたな

制度が中心になったと感じる福祉。昔の話を聞くと「何

かしなきゃ」といつも感じます。わらの仲間の中に若者たちはいるのでしょうか?いたら、どうやって巻きこんでいるのかな?

何だかわからないものが、何だかわからないままでそこにあること、いること、それが排除されないこと わかり合うとか共有するとか、少し重い、わかり合うことは難しい わからないまま、それでも共にあることがあたり前になるような空気がほしい

最近、あいとりしかり、きょううしない空気が支配的すぎる。

山下さん、克己さん、猪瀬さんなどと活動していますが、改めて話を聞いて新鮮でした。展示もよくされていて良かったです。

私は障害についてのトークなど、きくのははじめてでした。ここまで深く考えたことはなかったです。今後も考えていきたいと感じました。

地域と障害というテーマ どうしても課題の多い障がい者福祉 課題を全て取りのぞこうとするのではなく、共にまきこまれていくこと

人の人生はたくさんドラマが生まれているんだなあと思いました。映像を交えた部分を多く利用した方がよいと思った。伝えたい言葉が多すぎるから視覚化をお願いします。

他では行われないイベントの連投ありがとうございます。このまま突き進んで。

活動報告5

企画展「まなざしのあとさき」

日 時：2020年2月15日(土)～3月29日(日)※火曜休館

出展作家：大関 小夜子、KO☆、鈴木 一郎、鈴木 盛衛

会 場：はじまりの美術館

観 覧 料：一般500円、65歳以上250円、

高校生以下・障がい者手帳をお持ちの方および付添いの方(1名まで)無料

展示作品数：約350点 来場者数：600名



■レポート

障がいのある方の表現活動の特徴の1つとして、周囲の方による気づきや想いがないと第三者に届きにくいという特徴があります。また「作品」と呼ばれるものは、作者のまなざしが形になったものであり、日々生活する事業所や家庭のなかで、「だれか」のまなざしによって残されてきたものでもあります。日々うまれる表現について考えるとともに、来場者や支援者のまなざしを少しでも変えるきっかけとなることを狙い、本展を開催しました。出展作家の大関小夜子、KO☆、鈴木一郎、鈴木盛衛は、はじまりの美術館が2018年度よりはじめたアーカイブ事業の調査のなかで出会った作家です。4名とも、ほぼ無名に近い作り手であ

り、公募展を除き今回が美術館での展覧会に初出展です。会場内には、ぎっしりと並べるような形で作品を展示したほか、作者の周りの方へのインタビューをもとに作成した小さなパンフレットを設置しました。一部、体験できる作品を展示したほか、会期初日である2月15日には、「ギャラリートーク+アーティストin はじまりの美術館」というイベントを実施しました。イベントを通して、作家同士や作家と来場者との交流も生まれました。会期中、福島県内外より様々な世代の方に来場いただき、展覧会をじっくり楽しむ様子がみられました。

作家紹介

■ 大関 小夜子 OHZEKI Sayoko



《磐梯山》制作年不詳

1955～2018 年、福島県会津若松市出身。いわき市内の病院で絵を描き始める。1998年から、アガッセで過ごす始める。部屋にビニールを敷いて、スモックを着て制作するのが彼女の制作スタイル。紙を床に置いて、絵の具を擦り付けるように絵を描く。2010年ごろまで制作を行っていた。絵の制作以外にもパソコンを使って詩をつくることもしていた。



《海》制作年不詳



《バレリーナ》制作年不詳



《バラ》制作年不詳

■ KO☆ Kosei

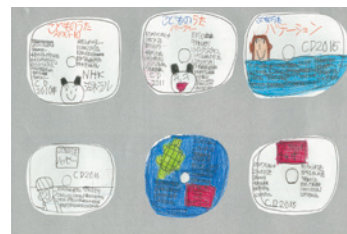


《気になる かんぱん・けいじばん》2019

2009年生まれ、福島県南会津在住。1歳ごろから道路標識が好きで、4歳のときにはじめて標識を描く。ドライブと絵を描くことが好きで、ドライブのときは窓から外の標識や看板、建物を見て、家に帰ってから絵を描く。描く以外にも、地図や道を暗記することも得意である。作品には一点透視図法（遠近法）のような表現が見られたり、朝・昼・夕方・夜と時間帯で色彩の表現を変えたりするところが特徴的である。



《無題》制作年不詳



《こどものうた》2019



《無題》制作年不詳

■ 鈴木 一郎 SUZUKI Ichiro



《森といきもの》制作年不詳

1943年生まれ、福島県会津若松市在住。1996年ごろからリハビリを兼ねて病院で絵を描く。1998年から、現在生活をしているアガッセで過ごすはじめる。当初は写真や雑誌などを見て人物を描くことが多かったが、近年は何も見ずに思い浮かんだ風景などを何日もかけて描く。テレビなどを置いてある共用スペースで午前と午後の1日2回絵を描くことが多い。



《無題》制作年不詳



《無題》制作年不詳



《柿》制作年不詳

■ 鈴木盛衛 SUZUKI Morie



《無題》制作年不詳

1945年生まれ、福島県喜多市在住。高校卒業後に看板描きの仕事を行う。2012年からしのめ荘で過ごす。身の回りにある段ボールや紙などを用いて立体作品を制作したり、絵を描く。新聞などを元にモチーフを探し、自身の居室のベッドの上で制作をすることが多い。大きな作品だと3-4ヶ月かけて制作することもある。絵に関しては、看板描きの経験から元になる絵にマス目を描いて寸法を測り、それをもとに絵を描く。



《よろしくね、3月3日ひなまつりのカワリヘンシンおちゃがりコボシ》制作年不詳

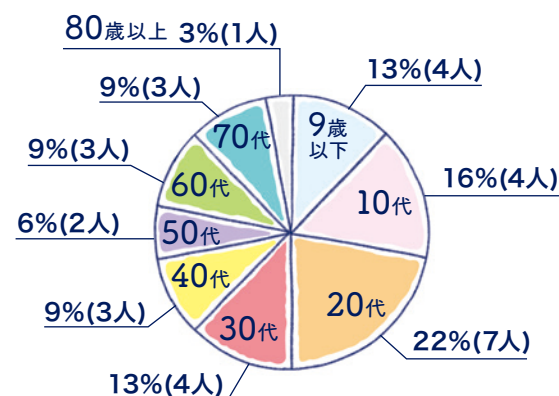


《山形こけしクリクリの目〜こけし〜》2018

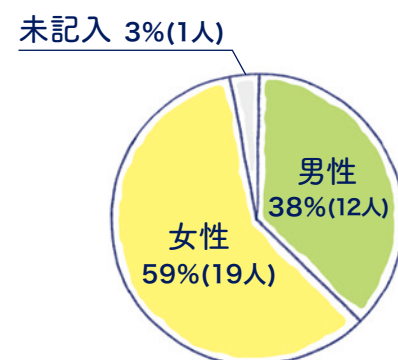


《春らしい軽やかな足元に!〜ハイヒール・靴〜》2018

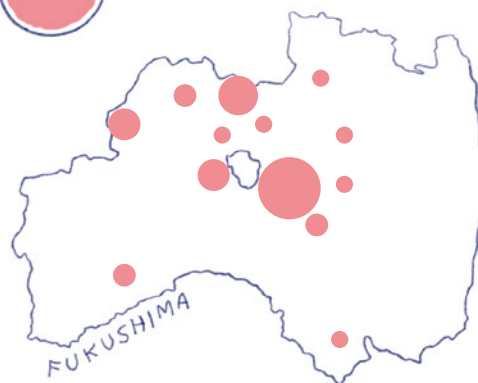
Q1 年齢をおしえてください



Q2 性別をおしえてください

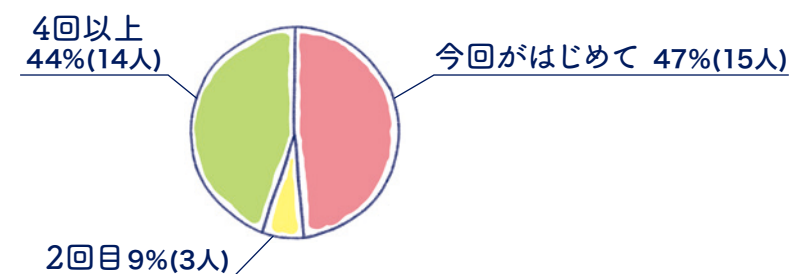


Q3 どちらからいらっしゃいましたか?

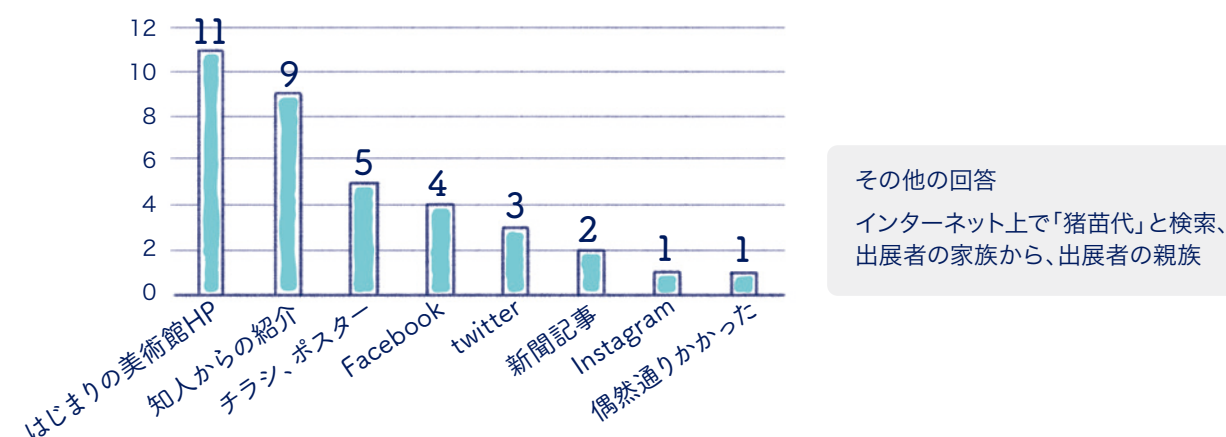


郡山市	25%(8人)	福島市	3%(1人)
北塩原市	13%(4人)	磐梯町	3%(1人)
会津若松市	9%(3人)	二本松市	3%(1人)
西会津町	9%(3人)	猪苗代町	3%(1人)
須賀川市	6%(2人)	三春町	3%(1人)
喜多方市	6%(2人)	塙町	6%(2人)
南会津町	6%(2人)		
		千葉県	3%(1人)

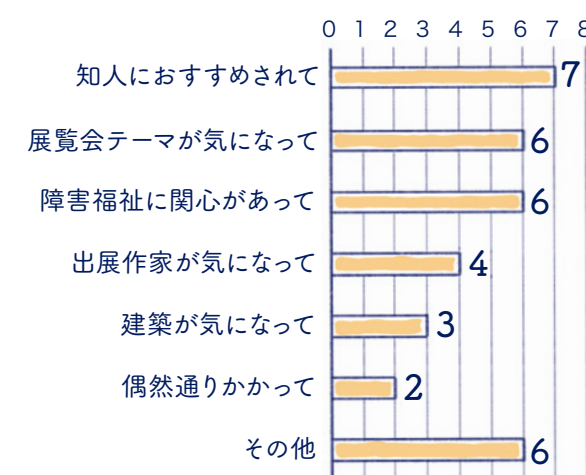
Q4 はじまりの美術館へ来た回数は?



Q5 展示会を知ったきっかけをおしえてください ※複数回答可

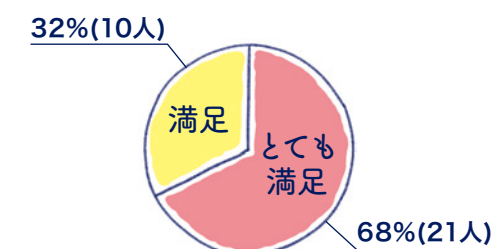


Q6 見に行こうと思ったきっかけは何ですか? ※複数回答可



その他の回答
お蕎麦を食べにきた。
赤べこに惹かれて。
初めてこちらへ来させていただいた際、素敵だと思ったから。
障害者の作品に興味があった。
イベントに参加した。磐梯山へ行く道路が通行止めになり、せっかくなので。
出展作家と面識があったため。出展作家と親しい知人。

Q7 満足度



Q8 展覧会へのご意見・ご感想をご記入ください

作品を見た後に小冊子があるという試みがとても面白いと思いました。

前に来館したときに拝見して面白いと思った。KO☆くんの作品が目に来て嬉しかったです。これからも沢山作品を楽しみにしています。

トイレを研究していたものが視点が面白くて興味深い作品だった。ダンボールで作られた作品群は、表現すべき部分を正確にとらえていてキレイに作られていたのが良かった。けん玉面白かったです。

おもしろい絵や手作りのおもちゃがあって楽しかったです。

一つ一つの作り込みがすごくて驚いた。サンタさんが可愛かった(鈴木さん)作品のあちこちから、たぶん一緒に過ごしている支援者の方の存在が感じられて福祉施設につとめる人間として利用者さんとの日常的な関わりをより大切にしようと思った。

私も今度絵とか送りたいです。綺麗だったのでこれからも続けて下さい。

はじまりの美術館のロゴ入りのTシャツ、またはトレーナーの販売(予約限定など)オリジナルのスイーツ、ジェラート、ソフトクリーム等の季節限定品での販売。売上金の何%かは障害者等へ。募金箱の設置。

人はそれぞれ持って生まれた才能があり、その能力を社会全体で共有することが大切と思った。ますますのご活躍を祈念いたしております。

感動しました。

小夜子さんの山の絵が印象に残りました。それぞれの描き方がありすてきだなと思いました。次の展覧も楽しみにしています。また来ます。

鈴木盛衛さんの仏像画をもっと見たいと思います。大関さんの力強い磐梯山、かもめ、朝陽のいわきの海、優雅なバレリーナとても素晴らしいです。

いろいろな作品があって面白かった。来てみたいと思っていたので良かった。

我が家にいるような落ち着いた空間にほっとしました。作品が生まれる瞬間を日々見ていますが、こうして展示することは少ないので、自宅でもう一度子どもたちの作品を見直してみようと思いました。のんびり1日過ごせそうな空間でした。

ダンボールで作られたおもちゃが思っていた以上に丈夫であったことがすごかったです。館内は、自分の家のように落ち着いてみる事が出来ました。

おもちゃがダンボールでがんじょうでとてもあそびやすく面白かった。

おもちゃがダンボールで作られていたけどがんじょうで、楽しく遊べた。

初めて知ったアーティストばかりでした。とても楽しめました。

いつもすてきな作品を展示していただき、ありがとうございます。はじまりの美術館さんの心地よい雰囲気大好きです。また来ます！

とても楽しくて写真撮影や手で触れることができてよかったです。また来たいです。

身体障害者の方の表現作品が味があるものが多く感動しました。

4名の方のお人柄を知ること(冊子のスタッフさん言葉もあり)より作品への温かみを感じました。冬のはじまりの美術館の外の雪や、中の床や空間も素敵だなあと、すてきな時間を頂きました。いつ来ても大切な貴重な場所だとあらためて思いました。ありがとうございました。

有名無名問わず表現することの尊さ、楽しさ、美しさをキュレーション、集める、みつける事、だれかとくらべてではなく、自分のかんせいを否定されない、受け入れてもらえることは、表現者にとってとてもありがたいことなんじゃないかと思います。

皆さん素晴らしかったですが、特に大関さん鈴木さんの作品に心ふるえました。私の兄が知的障害をもっているので障害を持つ方独特の優しさと世界の見え方に感動しました。建物、内装も素晴らしいです。また来ます。ありがとうございました

みんなの、すてきなさくひんを見るのが、いくとき、たのしみです。しんがたコロナのこともわすれてしまうくらいたのしいです。

とても見やすくまとめられていて作品がより一層引き立っていました。ご本人様が作成していた様子が目に浮かびました。とても感動しました。

とても感動しました。小夜子さん一郎さんの作品がこのようすばらしい形で皆さんに見ていただけるようにして下さりとても感謝しています。ありがとうございます。

メディア掲載

今回の事業に関して紹介・掲載いただいたメディアを紹介します。

■映画「記憶との対話」上映会

・9/22 福島民報(イベント情報) 映画「記憶との対話」上映会

■映画「ナイトクルージング」上映会

・9/26 福島民友14面 映画「ナイトクルージング」上映 / 監督が制作秘話

■まなざしのあとさき

- ・美術手帖ウェブ版 展覧会紹介ページに掲載
- ・日刊シティ情報ふくしまWEB イベント紹介ページに掲載
- ・web aruku イベント紹介ページに掲載
- ・個展ナビ 展覧会紹介ページに掲載
- ・artscapeアーツスケープ 展覧会紹介ページに掲載
- ・2/15 福島民友12面 会津ゆかりの作家350点 / 展示室に作者紹介パンフ
- ・2/16 福島民友26面 新たな視点 芸術紹介 / はじまりの美術館会津ゆかり4人展
- ・2/17 福島民友10面 作家が作品を語る / 猪苗代・はじまりの美術館 / 企画展ギャラリートーク
- ・2/17 福島民報8面 会津の作家4人 / 絵画、お面展示 / はじまりの美術館
- ・2/18 TUFテレビユー福島 ニュース番組内で紹介
- ・3/ 9 KFB福島放送 「福島まるごとライブ ヨジデス」生中継で紹介

令和元年度福島県障がい者芸術文化活動支援センター事業 報告書

編集： はじまりの美術館(岡部兼芳・小林竜也・大政愛)

編集補助： はじまりの美術館(中野美奈子・青木早知子)

写真： はじまりの美術館、白土亮次(p.15,16のみ)

イラスト・デザイン： ふるやまなつみ

発行： 社会福祉法人安積愛育園 はじまりの美術館
〒969-3122 福島県耶麻郡猪苗代町新町4873 TEL/FAX 0242-62-3454

2020年3月31日発行

©2020HAJIMARI ART CENTER All Rights Reserved. 無断転載複写禁止